



駿東伊豆消防組合

議会だより

NO.8 平成30年9月発行

駿東伊豆消防組合議会 定例会が開催されました。

平成30年第2回駿東伊豆消防組合議会定例会議事日程

平成30年8月21日（火曜日）午前11時 開会

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 諸般の報告
- 第 3 会期の決定
- 第 4 報第 1号 専決処分の報告について（交通事故損害賠償額の決定）
- 第 5 認第 1号 専決処分の報告及びその承認について（静岡州市町総合事務組合同規約の一部変更の同意）
- 第 6 認第 2号 平成29年度駿東伊豆消防組合会計歳入歳出決算の認定について
- 第 7 議第 6号 駿東伊豆消防組合職員の公益的法人等への派遣等に関する条例の制定について
- 第 8 議第 7号 平成30年度駿東伊豆消防組合会計補正予算（第1回）について
- 第 9 消防行政に対する一般質問
- 第 10 議会運営委員会の閉会中の継続調査



< 議案一覧 >

< 駿東伊豆消防組合管理者提出議案 >

議案名	内容	議決結果
報第1号 専決処分の報告について （交通事故損害賠償額の決定）	本案は、地方自治法第180条第1項の規定による議会の指定に基づき、損害賠償の額について、専決処分したので、報告するものです。	報告
認第1号 専決処分の報告及びその承認について（静岡州市町総合事務組合同規約の一部変更の同意）	本案は、地方自治法第179条第1項の規定により、特に緊急を要するため議会の招集する時間的余裕がないことが明らかであると認めため、静岡州市町総合事務組合同規約の一部変更について、本年6月13日付けで専決処分したので、報告し、承認を得るものです。	承認
認第2号 平成29年度駿東伊豆消防組合会計歳入歳出決算の認定について	本案は、地方自治法第233条第3項の規定により、平成29年度駿東伊豆消防組合会計歳入歳出決算について、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するものです。	認定
議第6号 駿東伊豆消防組合職員の公益的法人等への派遣等に関する条例の制定について	本案は、現在、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に研修派遣として派遣している職員について、「公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律」に基づき派遣するため、新たに条例を制定するものです。	可決
議第7号 平成30年度駿東伊豆消防組合会計補正予算（第1回）について	本案は、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億991万1,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ61億7,978万3,000円とするものです。	可決

<一般質問>

消防行政ここが聞きたい!

定例会において、3人の議員が消防行政の方針や考え方などについて一般質問を行いました。

山田直志 議員



・第3方面の課題について

秋山治美 議員



・広域化から2年が経過した中で、消防隊及び救急隊の現状について

片岡章一 議員



・管内における熱中症の発生状況等について

第3方面の課題について

山田直志議員

問

①救急車の運用について、第3方面に配備された救急車は、他の方面へ出動することなく、第3方面のみで運用することを基本とするよう見直しができないか。

答

警防救急課長

本消防本部において119番通報等で救急要請を受信した場合、通信指令システムの経路探査により方面にとらわれず、要請場所に最短時間で到着できる救急車を選択し出動しております。

これは、火災等の発生時においても同様であり、できるだけ早く現場に到着し活動することが住民の安全安心につながることから、第3方面のみで救急車を運用することは考えておりません。

問

②職員採用について、第3方面の職員は、大半を第3方面地域から採用することを基本とすることはできないか。

答

総務課長

職員採用につきましては、火災をはじめ複雑多様化する災害から、地域住民の生命・身体・財産を守るため、公正な採用試験を実施し、優秀な職員の採用に努めなければならないと考えております。

また、公正な採用試験を行うためには、本人の持つ適正・能力以外のことを採用基準にしないことが基本となります。

このことから、出身地にとらわれず幅広く職員の採用を行うため、平成30年第1回定例会時の消防行政に対する一般質問の答弁のとおり、市町村枠を設けた職員採用は考えておりません。



山田直志 議員

広域化から2年が経過した中で、消防隊及び救急隊の現状について

秋山治美議員

問

①旧消防本部での歴史がある中で、それぞれの消防隊として消火活動に対する方法や方針に多少の違いがあったと思われるが、広域から2年が経過した中でどのような対応をしたのか。

また、旧消防本部の消防隊が1つの事案に対し合同で活動することがあると思うが、円滑に活動するためにどのような対応をしたのか。

答

警防救急課長

消火活動に対する活動方針については、旧消防本部においても人命救助最優先であることに違いがありませんが、旧消防本部の規模により1事案に対し出動する消防車両及び人員数が異なるため、部隊運用に差異がありました。

このため、各方面に指揮隊を設置し、部隊運用の統一を図っております。

また、昨年度から消火隊に必要とされる安全確保で迅速な消火活動技術の習得を目的とした警防技術指導会を実施し、各消火隊の実践的な活動能力の向上を図っております。

次に、旧消防本部の消防隊が合同で消火活動を円滑に実施するためには、部隊運用を統一する必要があることから、指揮隊を中心とする実践的な合同訓練等を定期的に実施することにより、署所間及び方面間の連携強化を図っているとあります。

問

本消防組合では、多くの救急車を運用しているものと認識しているが、それぞれの救急隊の活動に違いはあるか。

答

警防救急課長

本消防本部では現在、19台の救急車を運用しておりますが、救急隊の活動は救急業務に係る法令、本組合の救急業務実施規程、静岡県メディカルコントロール協議会が定めるプロトコル等に基づき実施しておりますことから、救急隊の活動に違いはございません。

駿東伊豆消防本部管内における熱中症の発生状況等について

片岡章一議員

問

駿東伊豆消防本部管内及び市町別における熱中症発生件数及び熱中症発生に係る年齢別等の状況について。

答

警防救急課長

熱中症発生件数は、管内全体で8月20日現在、対前年比145件増の301件でありました。

また、構成市町別の熱中症発生件数は、同じく8月20日現在、沼津市は対前年比81件増の143件、伊東市は14件増の39件、伊豆市は15件増の34件、伊豆の国市は20件増の43件、東伊豆町は3件減の4件、函南町は14件増の21件、清水町は4件増の17件でありました。

次に、熱中症発生の年齢別等の状況では、全301件のうち65歳以上が152件で全体の50パーセントを占めており、以下、18歳以上65歳未満が96件で32パーセント、18歳未満が53件で18パーセントとなり、

高齢者の搬送件数が最も多い結果になりました。

また、傷病程度別では、軽症が171件で57パーセント、中等症は112件で37パーセント、重症は18件で6パーセントでありました。

問

熱中症予防について、消防としてどのような取組を実施しているか伺います。

答

警防救急課長

本消防本部の取組といたしましては、ホームページの最新情報に、管内における月別の熱中症発生状況や環境省作成の熱中症予防と処置についてのリーフレットを掲載し、熱中症に対する注意喚起を行っております。

また、地域のFM局やケーブルテレビの番組に職員が出演し、救急車の適正利用と併せ熱中症の予防対策について住民の皆様にご周知を図っております。

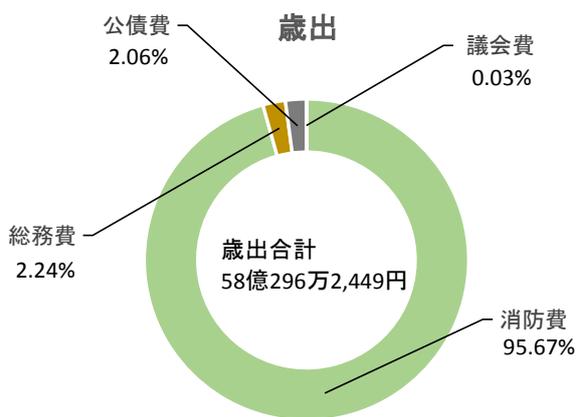
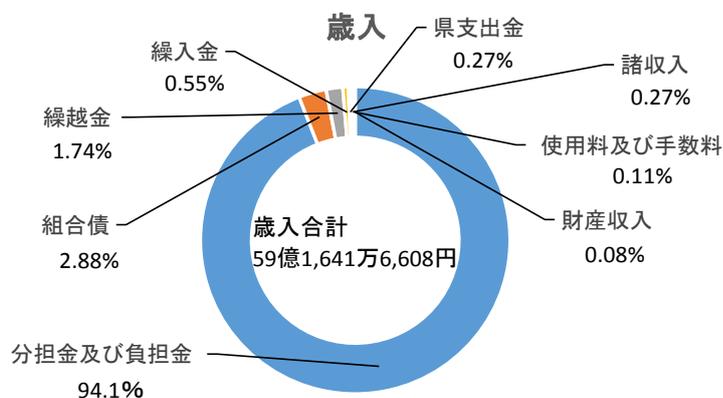


秋山治美 議員



片岡章一 議員

平成29年度決算を認定



決算の概要

歳入

款別	歳入決算額	構成比
1 分担金及び負担金	55億6,711万4000円	94.1%
2 使用料及び手数料	671万1,780円	0.11%
3 国庫支出金	0円	0%
4 県支出金	1,623万8,000円	0.27%
5 財産収入	450万3,080円	0.08%
6 寄付金	0円	0%
7 繰入金	3,255万8,400円	0.55%
8 繰越金	1億271万9,417円	1.74%
9 諸収入	1,597万1,931円	0.27%
10 組合債	1億7,060万円	2.88%
合計	59億1,641万6,608円	100%

歳出

1 議会費	96万9,080円	0.03%
2 総務費	1億3,025万5,922円	2.24%
3 消防費	55億5,176万554円	95.67%
4 公債費	1億1,997万6,893円	2.06%
5 予備費	0円	0%
合計	58億296万2,449円	100%

決算額 歳入 59億1,641万6,608円
歳出 58億296万2,449円

